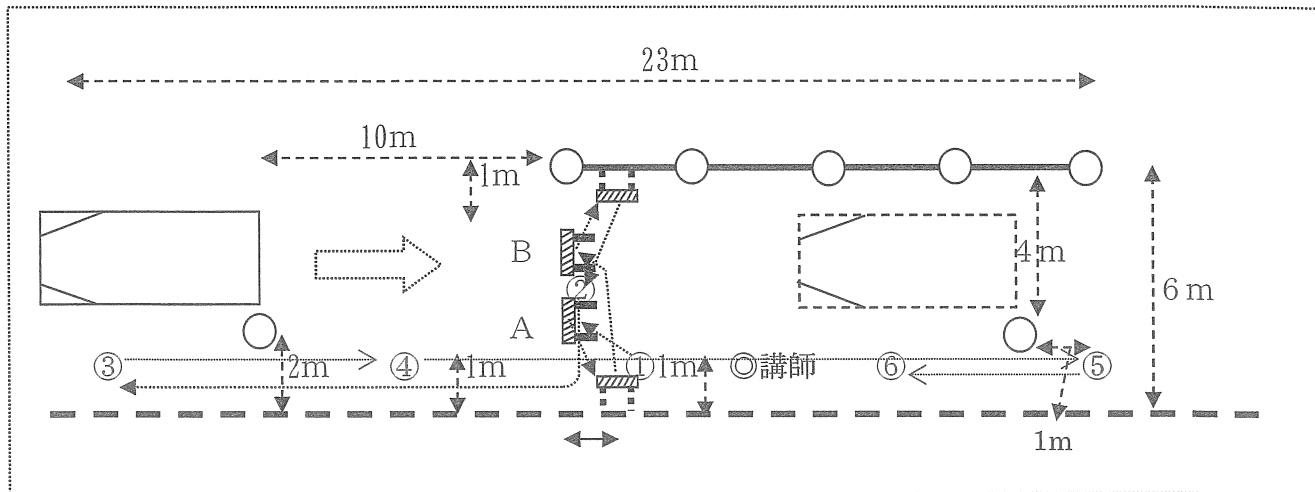


交通誘導警備（2級）実技運用マニュアル No.2

＜警笛及び素手による車両の後進誘導要領＞

(内訳：解説・模範演技・集合訓練－20分、個別訓練－3分×10回＝30分)



- 1、 責任講師は、受講者を集合させ、『素手による、工事車両の後進誘導要領』の実技訓練を実施する。
- 2、 責任講師は拡声器を使用して、以下の状況説明を行う。
『警備員が工事車両到着の連絡を受け、到着間際に閉鎖されているゲートを開放し、工事車両が到着後に素手により後進誘導を行う。このときの出入口近辺における誘導要領を訓練する。』
- 3、 責任講師は模範演技見学のため、受講生の前列を座らせる。
- 4、 講師は、更新誘導の模範演技を行う。
- 5、 模範演技担当講師は、あらかじめトランシーバを装着し、開始位置①につく。
- 6、 責任講師は、拡声器を用いて受講者に演技の解説を行う。

号令：『只今から、後進誘導要領の実技試験を実施する。制限時間は3分間。始め。』

(1) 警備員（講師）は、①の位置で講師に正対し、『実施します。』と申告する。



- (2) 警備員は左向け左を行い、自然な姿勢で左右の警戒(工事現場内及び左方からの車両)を行う。
- (3) 講師は、トランシーバーで警備員に対し、工事車両が到着した旨の連絡を入れる。
講 師：『間もなく工事車両が到着、誘導願います、どうぞ。』
警備員：『**工事車両誘導の件、了解。**』と復唱する。



(4) 警備員は、左向けを行い、出入口の内側から（規制帯内から体が出ないように）保安柵Aを開放、続いて保安柵Bを開放し、規制帯内の内側の両端にそれぞれ撤去する。





(5) 次に、出入口の中央②へ戻り、出入口と停止位置間（工事現場内）における道路の安全確認をし、中央付近を指差して、『**後方よし。**』と呼称する。（ここで工事車両が③の位置に到着することを想定。）



(6) 右向けを行い、駆け足で車道の左側端を通り工事車両の助手席横③の位置まで移動し、右向け右を行い、運転手に対して『後進誘導を行います。』と申告する。



(7) 右向け右をし、駆け足で車両の後方5メートルの④の位置に移動する。



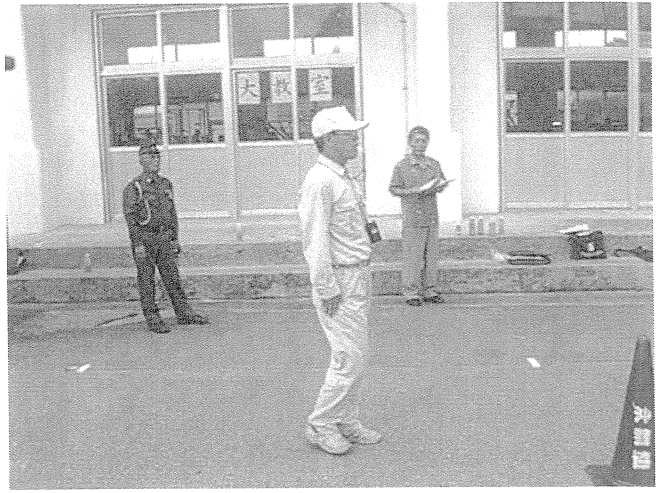
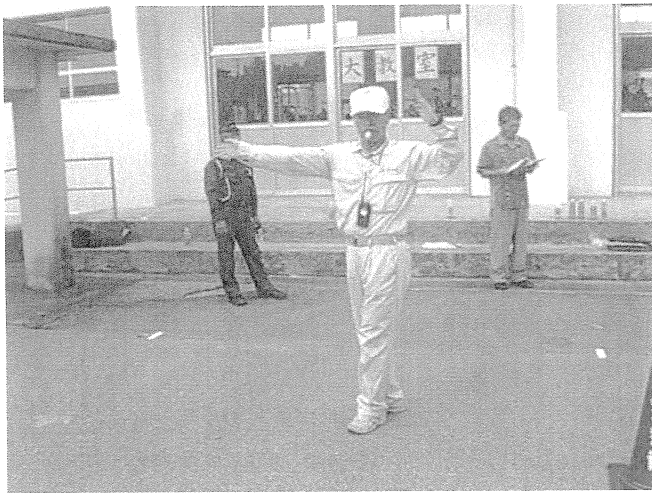
(8) 左向け左を行い、体を工事車両に平行させる。

- (9) (警笛をくわえ、後方の安全確認をしつつ、右腕を肩の高さの水平に上げ、(右手のひらを正面に向け)、続いて車両を注視し、左腕を肩の高さに水平に上げ(左手のひらは真上を上)にし、左手を肩の高さから大きく半円を描くように顔の前面(鼻の位置程度)まで前腕のみで振り寄せ、戻すときは逆の動作を繰り返す。

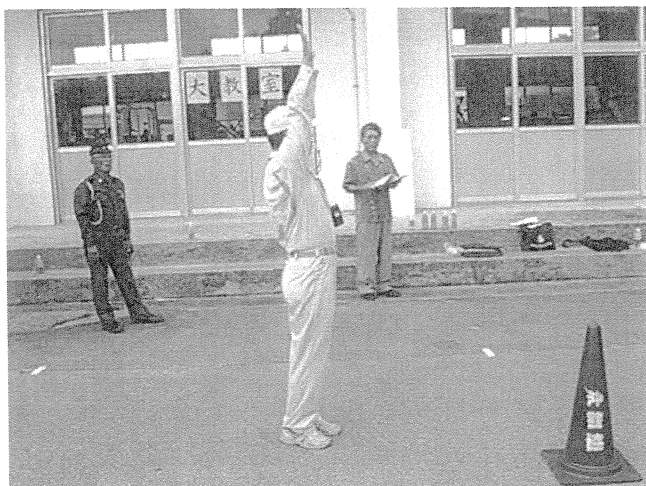


- (10) 誘導中は毎回(最低でも2回の誘導に1回以上)、顔を左右に向け前後の安全確認を行い、両足は転倒しないように自然に歩行する。
- (11) 警笛は、左前腕の振りに合わせて引き寄せるときに、『ピピー』と吹く。
- (12) 後進誘導開始位置④から⑤への誘導中は、工事車両との距離を一定(5m)に保つ。

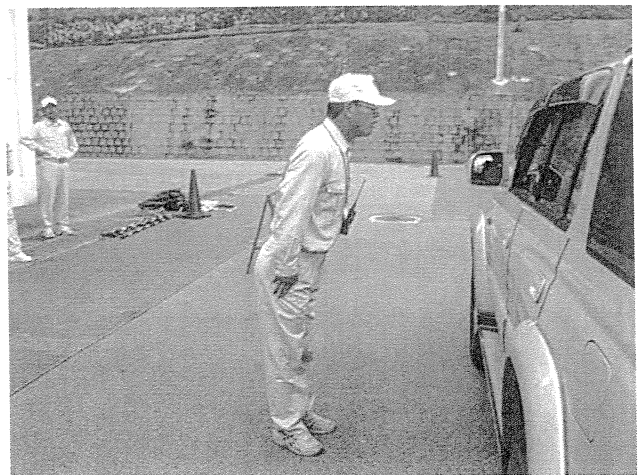
- (13) 警備員は⑤の位置まで誘導しながら移動し、工事車両が1メートル手前のセフティコーンで停止するように基本の姿勢（気を付け）になって方向変換を行い車両に正対する。（警備員が⑤に到着後、工事車両と停止位置との距離が遠い場合は、先に方向変換せずに、その場で安全確認を行いながら誘導を継続する。）



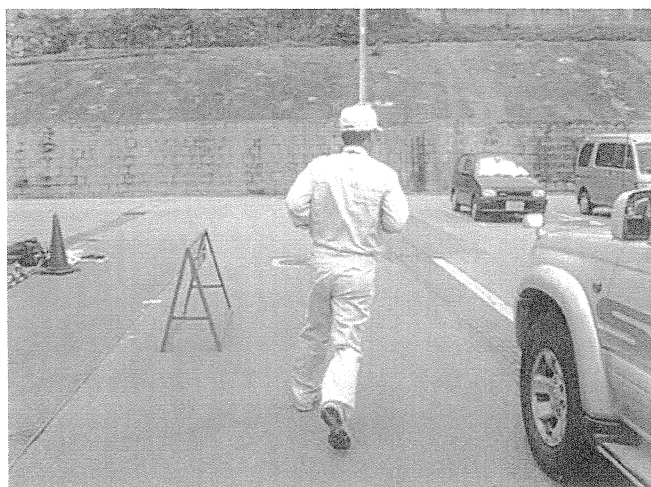
- (14) 警備員は基本の姿勢から手のひらが前方に向くように右腕を下から上へ前を通して垂直に上げ、工事車両を注視しながら、左右に約30センチメートルの振り幅で振り、右腕を肩の高さに水平まで下ろす。
- (15) 警笛は、予告の合図の状態から吹き始め、停止の合図が完了すると同時に吹き終わるように約3秒間『ピー、ピツ』と吹鳴する。



- (16) 警備員は右腕を下ろし警笛をはずし、工事車両の助手席横⑥まで駆け足で移動し、右向け右を行い、運転手に対して『誘導終了しました。』と申告する。



(17) 警備員は左向けを行い、駆け足で出入口の保安柵Bを閉鎖し、続いて保安柵Aを閉鎖、①の位置で出入口中央を指差して『閉鎖よし。』と呼称する。





- (18) 警備員は大きく右向けを行い、講師に正対し、『終了しました。』と申告する。
- (19) 責任講師は『やめ。交替。』の号令をかける。